

Aleurocanthus woglumi
(ミカンクロトゲコナジラミ)に関する
病害虫リスクアナリシス報告書

令和8年2月24日 改訂

農林水産省横浜植物防疫所

主な改訂履歴及び改訂内容

平成 28 年 3 月 25 日 作成

平成 31 年 3 月 25 日 発生国（アルゼンチン）の追加

令和 7 年 1 月 21 日 発生国（台湾及びナイジェリア）の追加

令和 8 年 2 月 24 日 発生国（ジョージア）の追加

目次

はじめに	1
I リスクアナリシス対象の病害虫の生物学的情報（有害動物）	1
1. 学名及び分類	1
2. 地理的分布	1
3. 寄主植物及びその日本国内での分布	2
4. 寄生部位及びその症状	3
5. 移動分散方法	3
6. 有害動物の大きさ及び生態	3
7. 媒介性又は被媒介性に関する情報	4
8. 被害の程度	4
9. 防除に関する情報	4
10. 同定、診断及び検出	4
11. 検疫処理及び措置	4
12. 我が国における現行の植物検疫措置	5
13. 諸外国での検疫措置状況	5
II リスクアナリシスの結果	6
第1 開始（ステージ1）	6
1. 開始	6
2. 対象となる有害動植物	6
3. 対象となる経路	6
4. 対象となる地域	6
5. 開始の結論	6
第2 病害虫リスク評価（ステージ2）	6
1. 有害動植物の類別	6
2. 農業生産等への影響の評価	7
3. 入り込みの可能性の評価	8
4. <i>Aleurocanthus woglumi</i> の病害虫リスク評価の結論	11
第3 病害虫リスク管理（ステージ3）	12
1. <i>Aleurocanthus woglumi</i> に対するリスク管理措置の選択肢の有効性及び実行可能性の検討	12
2. 経路ごとの <i>Aleurocanthus woglumi</i> に対するリスク管理措置の選択肢の検討	14
別紙1 <i>Aleurocanthus woglumi</i> の発生地 の根拠	16
別紙2 <i>Aleurocanthus woglumi</i> の寄主植物 の根拠	20
別紙3 <i>Aleurocanthus woglumi</i> の寄主植物に関連する経路の年間輸入検査量 （発生国からの貨物、郵便物及び携帯品）	23
引用文献	31

はじめに

Aleurocanthus woglumi は、植物防疫法施行規則（農林省, 1950）別表 1 に規定された検疫有害動物であり、同施行規則別表 2 の 2 に規定されている国又は地域からの該当する寄主植物の生植物（栽培の用に供するもの）の輸入は、輸出国での栽培地検査が必要とされている。

今般、本種の発生国について新たな情報が得られたことから、改めて本種に対する現行の検疫措置の有効性を検討するため、病害虫リスクアナリシスを実施した。

I リスクアナリシス対象の病害虫の生物学的情報（有害動物）

1. 学名及び分類

(1) 学名

Aleurocanthus woglumi Ashby, 1915

(2) 英名、和名等

citrus blackfly、ミカンクロトゲコナジラミ

(3) 分類

種類：節足動物

目：Hemiptera（カメムシ目）

科：Aleyrodidae

属：*Aleurocanthus*

(4) シノニム（CABI, 2014）

Aleurocanthus punjabensis Corbett, 1935

Aleurocanthus woglumi var. *formosana* Takahashi, 1935

Aleurodes woglumi

(5) 同属、近縁種の我が国での発生状況

Aleurocanthus spiniferus（ミカントゲコナジラミ）：カンキツ、ブドウ、カキ、ナシ、ビワ、バラ、多くの庭木の害虫。中国原産で、苗木に付着して明治末期に長崎に侵入。現在、本州以南の日本各地に分布（是永, 2003）。防除に関しては登録薬剤あり。

Aleurocanthus camelliae（チャトゲコナジラミ）：チャ、サザンカ、ヤブツバキ、サカキ等ツバキ科植物の葉を吸汁加害する。平成 16 年、京都府で初めて発生が確認されたチャの新たな害虫（佐藤, 2011）。当初ミカントゲコナジラミの一系統とされていたが、平成 23 年に独立種として公表された（Kanmiya et al., 2011）。防除に関しては登録薬剤あり（佐藤, 2011）。

ケニアのカンキツ園では本種と同属のミカントゲコナジラミ（前出；日本既発生）の両種が発生している。本種とミカントゲコナジラミは生態的選好性が異なり、ミカントゲコナジラミは高緯度で優先しているが、本種は低緯度に多い。日本及び大韓民国では本種は発生していないが、ミカントゲコナジラミは発生している。これは、ミカントゲコナジラミよりも本種の方が低温への耐性が低いことを示していると考えられる。温帯地域では施設内で発生する（CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997）。

2. 地理的分布

(1) 国又は地域（CABI, 2014；詳細は別紙 1 を参照。下線部は令和 8 年 2 月 24 日改訂時に追加。）

アジア：台湾、中華人民共和国、香港、インド、インドネシア、カンボジア、シンガポール、スリランカ、タイ、ネパール、パキスタン、バングラデシ

ユ、フィリピン、ブータン、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、モルデ
ィブ、ラオス

中東：アラブ首長国連邦、イエメン、イラン、オマーン

欧州：ジョージア

アフリカ：ウガンダ、エスワティニ、ケニア、ジンバブエ、セーシェル、タン
ザニア、ナイジェリア、南アフリカ共和国

北米：アメリカ合衆国、バミューダ諸島（英）

中南米：アルゼンチン、エクアドル、エルサルバドル、ガイアナ、グアテマ
ラ、コスタリカ、コロンビア、スリナム、ニカラグア、パナマ、ブラジ
ル、ベネズエラ、ベリーズ、メキシコ、フランス領ギアナ、アンティグ
ア・バーブーダ、キューバ、ジャマイカ、セントクリストファー・ネーヴ
ィス、セントルシア、ドミニカ、ドミニカ共和国、トリニダード・トバ
ゴ、ハイチ、バハマ、バルバドス、イギリス領バージン諸島、オランダ領
アンティル、グアドループ（仏）、ケイマン諸島（英）、プエルトリコ
（米）

大洋州：オーストラリア領クリスマス島（豪）、パプアニューギニア、ハワイ
諸島

（2）生物地理区

東洋区、エチオピア区、旧北区、新北区、新熱帯区及びオセアニア区の6区

3. 寄主植物及びその日本国内での分布

（1）寄主植物（CABI, 2014；詳細は別紙2を参照）

ミカン属の主要な害虫で、寄主範囲が広く、アボカド、バナナ、カシューナッツ、コ
ーヒー、ショウガ、ブドウ、バンジロウ、ライチ、マンゴウ、パパイヤ、ナシ、ザク
ロ、バラ属等で発生している。広食性で、ミカン科を含め69科の169種の植物から記
録されている（CABI, 2014）。

アオイ科：フヨウ属（*Hibiscus* spp.）

アカテツ科：サポジラ（*Manilkara zapota* (= *Achras zapota*））

アカネ科：コーヒーノキ属（*Coffea* spp.）

ウルシ科：カシューナッツ（*Anacardium occidentale*）、マンゴウ（*Mangifera indica*）

カタバミ科：ゴレンシ（*Averrhoa carambola*）

キョウチクトウ科：プルメリア属（*Plumeria* spp.）

クスノキ科：ゲッケイジュ（*Laurus nobilis*）、アボカド（*Persea americana*）

クワ科：クワ属（*Morus* spp.）

ザクロ科：ザクロ（*Punica granatum*）

ショウガ科：ショウガ（*Zingiber officinale*）

センダン科：カヤ・イボレンシス（*Khaya ivorensis*）

ツゲ科：ブクスス・センペルウィレンス（*Buxus sempervirens*）

トケイソウ科：クダモノトケイ（*Passiflora edulis*）

ナス科：ケストルム属（*Cestrum* spp.）

バショウ科：バショウ属（*Musa* spp.）

パパイヤ科：パパイヤ（*Carica papaya*）

バラ科：マルメロ（*Cydonia oblonga*）、ナシ属（*Pyrus* spp.）、バラ属（*Rosa* spp.）

バンレイシ科：バンレイシ属（*Annona* spp.）

ブドウ科：ブドウ属（*Vitis* spp.）

フトモモ科：ユーゲニア属 (*Eugenia* spp.)、バンジロウ (*Psidium guajava*)
ミカン科：ミカン属 (*Citrus* spp.)、ゲッキツ属 (*Murraya* spp.)
ムクロジ科：レイシ (*Litchi chinensis*)
ヤシ科：ココヤシ (*Cocos nucifera*)
ヤナギ科：ハコヤナギ属 (*Populus* spp.)

(2) 我が国における寄主・宿主植物の分布・栽培状況

ミカン：北海道、東北の一部を除く 42 都府県
ブドウ：全国 (47 都道府県)
ナシ：沖縄を除く 46 都道府県
マンゴウ：沖縄、宮崎、鹿児島等 10 県

並木や街路樹、防風林に利用されているハコヤナギ属のヤマナラシ (*Populus tremula* var. *sieboldii*) は、北海道、本州、四国、九州に、チョウセンヤマナラシ (*P. tremula* var. *davidiana*) は北海道に分布する。ドロノキ (*Populus suaveolens*) は北海道から本州の北近畿以北に分布する。

4. 寄生部位及びその症状 (CABI, 2014)

卵：若い葉の裏面に渦巻状に産み付けられる (外部寄生)。
幼虫：葉の師管部を吸汁加害する (外部寄生)。
成虫：葉の師管部を吸汁加害する (外部寄生)。

卵は、若い葉の裏面に渦巻状に産み付けられる。1 齢幼虫は活発で、日光を避けて、最小限移動する。葉の師管部を吸汁加害するため密なコロニーで存在する。2~4 齢幼虫は口器で葉に付着する。幼虫態及び成虫態が葉の師管部を吸汁加害する。下位葉の表面や茎に大量に分泌される甘露により、すす病の原因となる Black sooty mold fungus の発生を助長し、やがて葉が枯死する。新芽が吸汁加害されると、葉内の窒素分が減少するほか、葉上の排泄物により光合成量が減り、果実の減産等の影響を受ける。カンキツ類以外の植物では、3 世代以上寄生することはない、カンキツ類の果樹園に隣接している場合のみ大きな被害が起こることが報告されている。

5. 移動分散方法

(1) 自然分散

成虫は雄雌とも翅を持ち、追い風に乗り飛翔するが移動距離は短く、局所的な分散のみ (CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997)。

(2) 人為分散

長距離の分散は主に、カンキツ類や他の栽植用苗・苗木の国際貿易による (CABI, 2014)。

6. 有害動物の大きさ及び生態

(1) 有害動物の大きさ

卵は 0.2 mm、初め黄色で、その後濃灰色から黒色。1 齢幼虫は 0.3×0.15 mm、2 齢幼虫は 0.4×0.2 mm でこげ茶色で周辺は濃灰色、3 齢幼虫は 0.87×0.74 mm で黒色、4 齢幼虫 (蛹殻) は雌が 1.25 mm、雄が 1 mm で黒色。成虫は雄、雌とも翅を持ち、雄は 1.33 mm、雌は 1.7 mm (CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997)。

(2) 繁殖様式

両性生殖。

(3) 年間世代数

ライフサイクルは気候にもよるが2～4ヶ月で、年3～6世代発生する。熱帯地域では一年中すべての態が発生するが、低温期間には生殖活動は見られない (CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997)。アメリカ合衆国フロリダ州南部では年6世代発生 (Nguyen et al., 2007)。成長に最適な気候は、気温が28-32℃、湿度70～80%である。本種は、氷点下では生存できず、また、気温43℃を超える地域では発生していない (CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997)。

(4) 植物残さ中での生存

植物残さ中で生活できる情報はない。

(5) 休眠性

情報なし。

7. 媒介性又は被媒介性に関する情報

病菌等を媒介する情報はない。

8. 被害の程度

1973年のオマーンで樹間にアルファルファが生育するカンキツ果樹園のライムが加害され、25%の損失の報告がある (Watts and Alam, 1973)。メキシコでは本種はカンキツ類や、被害のあるカンキツ果樹園の近くのマンゴウ、ナシ、コーヒー等の他の作物への脅威と考えられている (CABI, 2014)。

9. 防除に関する情報

農薬散布により防除は可能である (CABI, 2014)。発生国において通常防除で農薬散布を実施している (Stansly and Rogers, 2014)。

10. 同定、診断及び検出

(1) 同定

4 齢幼虫 (蛹殻) : 体色、刺毛等の形態的特徴により識別・同定が可能である。

(2) 検出

卵は葉裏に渦巻状に産み付けられる。すす病で汚染されている葉裏の幼虫、蛹、成虫の有無をルーペや拡大鏡を使って検査する。

11. 検疫処理及び措置

臭化メチルくん蒸の薬量及び時間 (EPPO, 1993; FAO, 1983)

Temperature	Initial dosage	Exposure time	CTP (g h m ⁻³)"
18-21°C	28 g/m ³	2h	43
21-26.5°C	24 g/m ³	2h	36
27-29°C	20 g/m ³	2h	30
> 29°C	16 g/m ³	2h	24

EPPO は、栽植用植物、切り枝として輸入される寄主植物は、前年の栽培期間中に *A. woglumi* が寄生していないことが確認された苗に由来するものであることを推奨している (EPPO/CABI, 1997)。

1 2. 我が国における現行の植物検疫措置

寄主植物の栽植用生植物（種子及び果実を除く）について、本種の防除が十分に行われたほ場（栽培施設を含む。）で栽培され、当該植物が輸出されるまでの3か月間、毎月1回栽培地検査（葉裏に渦巻状に産み付けられた卵の有無並びにすす病で汚染された葉裏の幼虫、蛹及び成虫の有無の検査）を行って本種の発生がないことを確認し、その旨を検査証明書に追記することを求めている。

1 3. 諸外国での検疫措置状況

以下の国又は地域は、本種を検疫対象病害虫に指定している。

カンボジア、イスラエル、バーレーン、アゼルバイジャン、EU（A1 リスト）、ウクライナ、北マケドニア共和国、クロアチア、ジョージア、アルジェリア、ザンビア、チュニジア、ベナン、マダガスカル、マラウイ、モーリシャス、モーリタニア、モロッコ、アンティグア・バーブーダ、ウルグアイ、チリ、ニュージーランド、フランス領ポリネシア

Ⅱ リスクアナリシスの結果

第1 開始（ステージ1）

1. 開始

Aleurocanthus woglumi に対する現行の検疫措置の有効性を検討するため、病害虫リスクアナリシスを実施する。

2. 対象となる有害動植物

Aleurocanthus woglumi を対象とする。

3. 対象となる経路

リスクアナリシス対象の病害虫の生物学的情報の「2. 地理的分布」に示す「国又は地域」からの「3. 寄主植物及びその日本国内での分布」に示す「寄主植物」であって、「4. 寄生部位及びその症状」に示す「寄生部位」を含む植物を対象とする。

4. 対象となる地域

日本全域を対象とする。

5. 開始の結論

Aleurocanthus woglumi を開始点とし、その発生地域から輸入される植物を経路とした日本全域を対象とする病害虫リスクアナリシスを開始する。

第2 病害虫リスク評価（ステージ2）

1. 有害動植物の類別

ステージ1で特定された有害動植物について、国内における発生及び公的防除の有無、定着及びまん延の潜在性並びに経済的影響を及ぼす潜在性について調査し、検疫有害動植物となる潜在性を有するかを検討する。なお、以下の（1）～（3）の評価項目を満たしていない場合、それが判明した時点で評価を中止できるものとする。

（1）有害動植物の国内での発生の有無及び公的防除の有無

Aleurocanthus woglumi は、国内未発生である。

（2）定着及びまん延の潜在性

本種の寄主植物は、47都道府県で栽培されていることから、本種が国内に入り込んだ場合、国内に定着及びまん延するおそれがある。

（3）経済的影響を及ぼす潜在性

本種は、発生国であるメキシコにおいてカンキツ類をはじめ、マンゴウ、ナシ、コーヒーなど複数の作物の脅威とされている。また、オマーンにおいてはライムが加害され、25%の損失が生じたとの報告がある。本種は国内未発生であるが、本種が国内へ入り込み、定着及びまん延した場合、経済的影響を及ぼすおそれがある。

（4）評価にあたっての不確実性

特になし。

（5）有害動植物の類別の結論

本種は国内未発生であるが、寄主植物は国内で広く栽培されていることから、本種が国内に入り込んだ場合、定着及びまん延するおそれがある。また、本種は発生国において様々な寄主植物での被害報告があることから、国内においても経済的影響を及ぼす可

能性は否定できない。

したがって、本種は検疫有害動植物となる潜在性を有することから、引き続き「2. 農業生産等への影響の評価」で評価を行う。

2. 農業生産等への影響の評価

評価項目	評価における判断の根拠等	得点
(1) 定着の可能性の評価		
ア リスクアナリシスを実施する地域における潜在的検疫有害動植物の生存の可能性		
(ア) 潜在的検疫有害動植物の生存の可能性	カンキツ類は周年で存在する。	
(イ) リスクアナリシスを実施する地域における中間宿主の利用可能性	有害動物では評価しない。	—
(ウ) 潜在的検疫有害動植物の繁殖戦略	両性生殖	2点
イ リスクアナリシスを実施する地域における寄主又は宿主植物の利用可能性及び環境の好適性		
(ア) 寄主又は宿主植物の利用可能性及び環境の好適性	ブドウが47都道府県で栽培されている。	5点
(イ) 潜在的検疫有害動植物の寄主又は宿主範囲の広さ	ミカン科を含め24科。	
(ウ) 潜在的検疫有害動植物のリスクアナリシスを実施する地域における環境の好適さ		
(エ) 有害動植物の侵入歴	東洋区、エチオピア区、旧北区、新北区、新熱帯区及びオセアニア区の6区。	5点
ウ 定着の可能性の評価結果		4点
(2) まん延の可能性の評価		
ア 自然分散(自然条件における潜在的検疫有害動植物の分散)		
(ア) 有害動物(線虫を除く)の自然分散		
a 移動距離	成虫は翅を持ち、追い風により飛行するが移動距離は短く、局所的な分散のみ。	3点
b 年間世代数	年3～6世代発生する。	5点
イ 人為分散		
(ア) 農作物を介した分散	ブドウが47都道府県で栽培されている。	5点
(イ) 非農作物を介した分散	特になし。	一点
ウ まん延の可能性の評価結果		4.33点
(3) 経済的重要性の評価		

ア 直接的影響		
(ア) 影響を受ける農作物又は森林資源	ミカン属、ブドウ、ナシ、ショウガ、マンゴウ等の農産物産出額：4,398.8 億円	4 点
(イ) 生産への影響	発生国においてはその作物において高い頻度での枯死にいたる例はないが、品質低下、減収を含む明確な経済的被害が報告されている（間接的被害）。	3 点
(ウ) 防除の困難さ	農薬散布により防除は可能である。	
(エ) 直接的影響の評価結果		3 点
イ 間接的影響		
(ア) 農作物の政策上の重要性	「農業保険法」及び「同法施行令」で定める果樹・農作物及び「果樹農業振興特別措置法施行令」で定める果樹	1 点
(イ) 輸出への影響	特になし	一点
ウ 経済的重要性の評価結果		4 点
評価における不確実性		
農業生産等への影響評価の結論 (病害虫固有のリスク)	高い	69.3 点

3. 入り込みの可能性の評価

項目	評価における判断の根拠等		
(1) 寄生部位	卵：若い葉の裏面に渦巻状に産み付けられる（外部寄生）。 幼虫：葉の師管部を吸汁加害する（外部寄生）。 成虫：葉の師管部を吸汁加害する（外部寄生）。		
(2) 我が国に入り込む可能性のある経路	卵が若い葉の裏面に渦巻状に産み付けられ、幼虫態及び成虫態が葉の師管部を吸汁加害することから、入り込む可能性のある経路は〔栽植用植物〕及び〔消費生植物〕である。		
	経路・用途	部位	経路となる可能性
	ア 栽植用植物	葉（卵、幼虫及び成虫）、枝（幼虫及び成虫）	○
イ 消費生植物	葉（卵、幼虫及び成虫）、枝（幼虫及び成虫）	○	
(3) 寄主植物の輸入検査量	別紙3を参照		

(4) 入り込みの可能性の評価

ア 栽植用植物

評価項目	評価における判断の根拠等	得点
(ア) 輸送中の生き残りの可能性 (加工処理に耐えて生き残る可能性)	原産地で潜在的検疫有害動植物の生存率に影響を与える加工処理等は実施していない。	5点
(イ) 潜在的検疫有害動植物の個体の見えにくさ	卵は0.2 mm、若い葉の裏面に渦巻状に産み付けられる。1 齢幼虫は0.3 x 0.15 mm、2 齢幼虫は0.4 x 0.2 mm、3 齢幼虫は0.87 x 0.74 mm、4 齢幼虫 (蛹殻) は雌が1.25 mm、雄が1 mm で、葉の師管部を吸汁加害する。成虫は雄、雌とも翅を持ち、雄は1.33 mm、雌は1.7 mm、葉の師管部を吸汁加害する。	2点
(ウ) 輸入品目からの人為的な移動による分散の可能性	栽植用植物	5点
(エ) 輸入品目からの自然分散の可能性	栽植用植物	5点
評価における不確実性		
入り込みの可能性の評価の結論	高い	4.3点

イ 消費生植物

評価項目	評価における判断の根拠等	得点
(ア) 輸送中の生き残りの可能性 (加工処理に耐えて生き残る可能性)	原産地で潜在的検疫有害動植物の生存率に影響を与える加工処理等は実施していない。	5点
(イ) 潜在的検疫有害動植物の個体の見えにくさ	卵は0.2 mm、若い葉の裏面に渦巻状に産み付けられる。1 齢幼虫は0.3 x 0.15 mm、2 齢幼虫は0.4 x 0.2 mm、3 齢幼虫は0.87 x 0.74 mm、4 齢幼虫 (蛹殻) は雌が1.25 mm、雄が1 mm で、葉の師管部を吸汁加害する。成虫は雄、雌とも翅を持ち、雄は1.33 mm、雌は1.7 mm、葉の師管部を吸汁加害する。	2点
(ウ) 輸入品目からの人為的な移動による分散の可能性	全国で生産	4点
(エ) 輸入品目からの自然分散の可能性	1 齢幼虫は最小限移動する。齢が進むと幼虫は寄主植物の葉に付着し吸汁加害するため移動しない。成虫は翅を持ち、追い風に乗って飛翔するが移動距離は短く、局所的な分散のみ。	2点

評価における不確実性		
入り込みの可能性の評価の結論	中程度	3.3 点

4. *Aleurocanthus woglumi* の病害虫リスク評価の結論

農業生産等への影響の評価の結論（病害虫固有のリスク）	入り込みの可能性		病害虫リスク評価の結論
	用途	入り込みの可能性の評価の結論	
高い	ア 栽植用植物（苗、苗木及び穂木）	高い	高い
	イ 消費用生植物（切り枝）	中程度	中程度（農業生産等への影響が高い）

第3 病害虫リスク管理（ステージ3）

病害虫リスク評価の結果 *Aleurocanthus woglumi* はリスク管理措置が必要な検疫有害動物であると判断されたことから、ステージ3において、発生国からの寄主植物の輸入に伴う本種の入り込みの可能性を低減するための適切な管理措置について検討する。

1. *Aleurocanthus woglumi* に対するリスク管理措置の選択肢の有効性及び実行可能性の検討

選択肢	方法	有効性及び実行可能性の検討	実施主体 (時期)	有効性	実行上の難易
① 病害虫無発生地域又は病害虫無発生生産地の設定及び維持	ISPM(植物検疫措置に関する国際基準) 4 又は 10 の規定に従って設定及び維持	<p>[有効性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ISPMに基づき輸出国の国家植物防疫機関が設定、管理及び維持する病害虫無発生地域又は病害虫無発生生産地であれば、リスクを十分に低減することができる。 <p>[実行可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 輸出国において適切に管理されることが条件であるが、実行可能と考えられる。 	輸出国 (輸出前)	○	○
② 栽培地検査	栽培地で適切な時期に公的検査を行う。	<p>[有効性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 卵は若い葉の裏面に渦巻状に産み付けられ、幼虫もコロニーで裏面に付着するため、目視による発見は可能である。本虫のライフサイクルは2～4ヶ月であり、通常全ての態が混在しており、栽培期間中の適切な時期に検査を行えば発見は容易である。また、本種は飛翔性があるが、輸出前3ヶ月程度において3回程度の継続した検査を行うことによりほ場に発生していないことを担保できる。 <p>[実行可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 輸出国において適切に実施されることが条件であるが、実行可能と考えられる。 	輸出国 (栽培中)	○	○

<p>③ 荷口への本種の付着がないことを検査証明書に追記</p>	<p>本種を対象とした綿密な検査</p>	<p>[有効性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 卵は0.2mm、若い葉の裏面に渦巻状に産み付けられる。1 齢幼虫は0.3×0.15 mm、2 齢幼虫は0.4×0.2 mm、3 齢幼虫は0.87×0.74 mm、4 齢幼虫（蛹殻）は雌が1.25 mm、雄が1 mmで、葉の師管部を吸汁加害する。成虫は雄、雌とも翅を持ち、雄は1.33 mm、雌は1.7 mm、葉の師管部を吸汁加害する。そのため、本種の寄生する可能性の高い部位、特に若い葉の裏面に対し、綿密な検査を行えば発見することは可能であり、消費植物であれば、適切な保護水準までリスクを低減することができる。 <p>[実行可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 輸出国において適切に実施されることが条件であるが、実行可能と考えられる。 	<p>輸出国 (輸出中)</p>	<p>栽植用植物： ▽消費植物：○</p>	<p>○</p>
<p>④ 輸出入検査</p>	<p>目視検査</p>	<p>[有効性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 卵は0.2 mm、若い葉の裏面に渦巻状に産み付けられる。1 齢幼虫は0.3×0.15 mm、2 齢幼虫は0.4×0.2 mm、3 齢幼虫は0.87×0.74 mm、4 齢幼虫（蛹殻）は雌が1.25 mm、雄が1 mmで、葉の師管部を吸汁加害する。成虫は雄、雌とも翅を持ち、雄は1.33 mm、雌は1.7 mm、葉の師管部を吸汁加害する。また、通常全ての態が混在しており、消費植物であれば、通常の輸出入検査（目視検査）で適切な保護水準までリスクを低減することができる。 	<p>輸出国 (輸出時) } 輸入国 (輸入時)</p>	<p>栽植用植物： ▽消費植物：○</p>	<p>○</p>

		[実行可能性] ● 通常行っている検査であり 実行可能である。			
--	--	---------------------------------------	--	--	--

- 有効性 ○：効果が高い
▽：限定条件下で効果がある
×：効果なし
- 実行可能性 ○：実行可能
▽：実行性が低い
×：実行困難

2. 経路ごとの *Aleurocanthus woglumi* に対するリスク管理措置の選択肢の検討

(1) 栽植用植物

ア リスク管理措置

- (ア) 病害虫無発生地域又は病害虫無発生生産地の設定及び維持（選択肢①）
(イ) 栽培地検査（栽培地で適切な時期に公的検査を行う）（選択肢②）

イ 検討結果

卵は 0.2 mm、若い葉の裏面に渦巻状に産み付けられる。1 齢幼虫は 0.3×0.15 mm、2 齢幼虫は 0.4×0.2 mm、3 齢幼虫は 0.87×0.74 mm、4 齢幼虫（蛹殻）は雌が 1.25 mm、雄が 1 mm で、葉の師管部を吸汁加害する。成虫は雄、雌とも翅を持ち、雄は 1.33 mm、雌は 1.7 mm、葉の師管部を吸汁加害する。本種は微小であり、病害虫全般を検査する通常の輸出入検査（目視検査）のみでは見逃すおそれが高い。たとえ本種を対象とした綿密な検査をしても、卵及び若齢幼虫は特に微小であり、卵又は若齢幼虫のみが寄生した場合、栽植用植物では、リスクを十分低減できない。しかし、栽培中のほ場においては、各態が混在して見られるため、栽培ほ場において、適切な時期に検査すれば、発見は容易であり、適切な保護水準までリスクを低減することが可能である。また、本種は飛翔性があるが、輸出前の 3 ヶ月程度の期間に 3 回程度の継続した検査を行えば、ほ場に発生していないことを十分保証できる。また、ISPM に従った病害虫無発生地域又は病害虫無発生生産地で栽培されたものであれば、リスクを十分に低減することができる。

(2) 消費生植物

ア リスク管理措置

- (ア) 病害虫無発生地域又は病害虫無発生生産地の設定及び維持（選択肢①）
(イ) 栽培地検査（栽培地で適切な時期に公的検査を行う）（選択肢②）
(ウ) 荷口への本種の付着がないことを確認し、検査証明書へその旨を追記（対象とする病害虫に応じた綿密な検査）（選択肢③）
(エ) 輸出入検査（目視検査）（選択肢④）

イ 検討結果

卵は 0.2 mm、若い葉の裏面に渦巻状に産み付けられる。1 齢幼虫は 0.3×0.15 mm、2 齢幼虫は 0.4×0.2 mm、3 齢幼虫は 0.87×0.74 mm、4 齢幼虫（蛹殻）は雌が 1.25 mm、雄が 1 mm で、葉の師管部を吸汁加害する。成虫は雄、雌とも翅を持ち、雄は 1.33 mm、雌は 1.7 mm、葉の師管部を吸汁加害する。本種は非常に微小であり、卵又は若齢幼虫のみが付着している場合は、通常の輸出入検査（目視検査）のみでは見逃す可能性が高い。しかし、通常各態が混在して見られるため、消費生植物であれば、通常の輸出入検査のみであっても、適切な保護水準までリスクを低減することができる。ま

た、ISPM に従った病害虫無発生地域又は病害虫無発生生産地で栽培されたもの又は栽培地検査を行ったほ場で栽培されたものであれば、リスクを十分に低減することができる。

Aleurocanthus woglumi の発生地の根拠

国	ステータス	根拠論文及び備考
アジア		
大韓民国	未発生	CABI, 2014 (invalid record); EPPO/CABI, 1997
朝鮮民主主義人民共和国	未発生	CABI, 2014 (invalid record); EPPO/CABI, 1997
台湾	発生	Dubey and Ko, 2012
中華人民共和国	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
-広東省	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
-海南省	発生	CABI, 2014
香港	発生	CABI, 2014 (few occurrences); EPPO/CABI, 1997
インド	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
-Andhra Pradesh	発生	CABI, 2014
-Assam	発生	CABI, 2014
-Bihar	発生	CABI, 2014
-Delhi	発生	CABI, 2014
-Goa	発生	CABI, 2014
-Gujarat	発生	CABI, 2014
-Indian Punjab	発生	CABI, 2014
-Karnataka	発生	CABI, 2014
-Lakshadweep	発生	CABI, 2014
-Madhya Pradesh	発生	CABI, 2014
-Maharashtra	発生	CABI, 2014
-Sikkim	発生	CABI, 2014
-Tamil Nadu	発生	CABI, 2014
-Uttar Pradesh	発生	CABI, 2014
-West Bengal	発生	CABI, 2014
インドネシア	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
-Irian Jaya	発生	CABI, 2014
-Java	発生	CABI, 2014
-Kalimantan	発生	CABI, 2014
-Sulawesi	発生	CABI, 2014
-Sumatra	発生	CABI, 2014
カンボジア	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
シンガポール	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
スリランカ	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
タイ	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
ネパール	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
パキスタン	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
バングラデシュ	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997

フィリピン	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
ブータン	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
ベトナム	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
マレーシア	発生	CABI, 2014 (few occurrences); EPPO/CABI, 1997
-Peninsular Malaysia	発生	CABI, 2014
-Sabah	発生	CABI, 2014
-Sarawak	発生	CABI, 2014
ミャンマー	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
モルディブ	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
ラオス	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
中東		
アラブ首長国連邦	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
イエメン	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
イラン	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
オマーン	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
欧州		
英国	未発生	CABI, 2014 (intercepted only)
オランダ	未発生	CABI, 2014 (confirmed by survey)
クロアチア	未発生	CABI, 2014 (confirmed by survey)
<u>ジョージア</u>	<u>発生</u>	<u>CABI, 2025; EPPO, 2025; Gabaidze et al., 2024; Yakiobashvili et al., 2021</u>
ポルトガル	未発生	CABI, 2014 (unreliable record)
-アゾレス諸島	未発生	CABI, 2014 (unreliable record)
アフリカ		
ウガンダ	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
エスワティニ	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
ケニア	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
ジンバブエ	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
セーシェル	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
タンザニア	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
チュニジア	未発生	CABI, 2014 (invalid record); EPPO/CABI, 1997
ナイジェリア	発生	Oyelade and Ayansola, 2015
南アフリカ共和国	発生	CABI, 2014 (Restricted distribution); EPPO/CABI, 1997
北米		
アメリカ合衆国	発生	CABI, 2014 (Restricted distribution)
-Florida	発生	CABI, 2014
-Texas	発生	CABI, 2014
バミューダ諸島 (英)	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
中南米		

アルゼンチン	発生	López et al., 2011
エクアドル	発生	CABI, 2014 (Restricted distribution); EPPO/CABI, 1997
エルサルバドル	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
ガイアナ	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
グアテマラ	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
コスタリカ	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
コロンビア	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
スリナム	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
ニカラグア	発生	CABI, 2014
パナマ	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
ブラジル	発生	CABI, 2014 (Restricted distribution)
-Amapa	発生	CABI, 2014
-Amazonas	発生	CABI, 2014
-Goiás	発生	CABI, 2014
-Maranhão	発生	CABI, 2014
-Para	発生	CABI, 2014
-Pernambuco	発生	CABI, 2014
-Roraima	発生	CABI, 2014
-São Paulo	発生	CABI, 2014
-Tocantins	発生	CABI, 2014
ベネズエラ	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
ベリーズ	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
ペルー	未発生	CABI, 2014 (invalid record)
メキシコ	発生	CABI, 2014
フランス領ギアナ	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
アンティグア・バーブーダ	発生	CABI, 2014 (Restricted distribution)
イギリス領バージン諸島	発生	CABI, 2014
オランダ領アンティル	発生	CABI, 2014 (Restricted distribution); EPPO/CABI, 1997
キューバ	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
ジャマイカ	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
セントクリストファー・ネイビス	発生	CABI, 2014
セントルシア	発生	CABI, 2014
ドミニカ	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
ドミニカ共和国	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
トリニダード・トバゴ	発生	CABI, 2014
ハイチ	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997

バハマ	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
バルバドス	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
グアドループ(仏)	発生	CABI, 2014
ケイマン諸島(英)	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
プエルトリコ	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
大洋州		
ソロモン	未発生	CABI, 2014 (unreliable record); EPPO/CABI, 1997
オーストラリア領 クリスマス島	発生	CABI, 2014
パプアニューギニア	発生	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997
ハワイ諸島	発生	CABI, 2014

注) 下線部は、令和8年(2026年)2月24日改訂時に追加した発生地。

Aleurocanthus woglumi の寄主植物の根拠

科名	学名	シノニム	和名		英名	根拠文献（情報）	備考
			属名	種名			
アオイ科 (Malvaceae)	<i>Hibiscus</i> spp.		フヨウ属			CABI, 2014	
アカテツ科 (Sapotaceae)	<i>Manilkara zapota</i>	<i>Achras zapota</i>	サポジラ属	サポジラ	sapodilla	CABI, 2014	
アカネ科 (Rubiaceae)	<i>Coffea</i> spp.		コーヒーノキ属			CABI, 2014	
ウルシ科 (Anacardiaceae)	<i>Anacardium occidentale</i>		カシューナツトノキ属	カシューナツツ	cashew	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997	
ウルシ科 (Anacardiaceae)	<i>Mangifera indica</i>		マンゴウ属	マンゴウ	mango	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997	
カタバミ科 (Oxalidaceae)	<i>Averrhoa carambola</i>		ゴレンシ属	ゴレンシ	carambola	CABI, 2014	
キョウチクトウ科 (Apocynaceae)	<i>Plumeria</i> spp.		プルメリア属			CABI, 2014	
クスノキ科 (Lauraceae)	<i>Laurus nobilis</i>		ゲッケイジュ属	ゲッケイジュ	bay laurel	CABI, 2014	
クスノキ科 (Lauraceae)	<i>Persea americana</i>		ワニナシ属	アボカド	avocado	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997	
クワ科 (Moraceae)	<i>Morus</i> spp.		クワ属			CABI, 2014	
ザクロ科 (Punicaceae)	<i>Punica granatum</i>		ザクロ属	ザクロ	pomegranate	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997	
ショウガ科 (Zingiberaceae)	<i>Zingiber officinale</i>		ショウガ属	ショウガ	ginger	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997	

センダン科 (Meliaceae)	<i>Khaya ivorensis</i>		アフリカマホ ガニー属	カヤ・イボレ ンシス	African mahogany	CABI, 2014	
ツゲ科 (Buxaceae)	<i>Buxus sempervirens</i>		ツゲ属	ブクスス・セ ンペルウィレ ンス	common box	CABI, 2014	
トケイソウ科 (Passifloraceae)	<i>Passiflora edulis</i>		トケイソウ属	クダモノトケ イ	passion fruit	CABI, 2014	
ナス科 (Solanaceae)	<i>Cestrum</i> spp.		ケストルム属			CABI, 2014	
バショウ科 (Musaceae)	<i>Musa</i> spp.		バショウ属			CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997	
パパイヤ科 (Caricaceae)	<i>Carica papaya</i>		パパイヤ属	パパイヤ	papaya	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Cydonia oblonga</i>		マルメロ属	マルメロ	quince	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Pyrus</i> spp.		ナシ属			CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997	
バラ科 (Rosaceae)	<i>Rosa</i> spp.		バラ属			CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997	
バンレイシ科 (Annonaceae)	<i>Annona</i> spp.		バンレイシ属			CABI, 2014	
ブドウ科 (Vitaceae)	<i>Vitis</i> spp.		ブドウ属			CABI, 2014	
ブドウ科 (Vitaceae)	<i>Vitis vinifera</i>		ブドウ属	ヨーロッパブ ドウ	European grape	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997	
フトモモ科 (Myrtaceae)	<i>Eugenia</i> spp.		ユーゲニア属			CABI, 2014	
フトモモ科 (Myrtaceae)	<i>Psidium guajava</i>		バンジロウ属	バンジロウ	guava	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997	

ミカン科 (Rutaceae)	<i>Citrus</i> spp.		ミカン属			CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997	
ミカン科 (Rutaceae)	<i>Murraya</i> spp.		ゲッキツ属			CABI, 2014	
ムクロジ科 (Sapindaceae)	<i>Litchi chinensis</i>		レイシ属	レイシ	lichi	CABI, 2014; EPPO/CABI, 1997	
ヤシ科 (Palmae)	<i>Cocos nucifera</i>		ココヤシ属	ココヤシ	coconut	CABI, 2014	
ヤナギ科 (Salicaceae)	<i>Populus</i> spp.		ハコヤナギ属			CABI, 2014	
ヤブコウジ科 (Myrsinaceae)	<i>Ardisia swartzii</i>		ヤブコウジ属			CABI, 2014	継続調査

Aleurocanthus woglumi の寄主植物に関連する経路の年間輸入検査量
(発生国からの貨物、郵便物及び携帯品)

(1) 栽植用植物

単位 (数量): 本

植物名	生産国	2022		2023		2024	
		件数	数量	件数	数量	件数	数量
Achras zapota(=Manilkara zapota)(サトウシヤウ)	インドネシア			1	4		
	タイ					1	5
	台湾			2	14		
Anacardium occidentale(カシューナツ(カシュー))	台湾			1	12		
Annona(パプルイヤ属)	中国					1	400
	米国					1	1
Ardisia(ヤブコウジ属(マンリョウ属)(水草))	インドネシア					1	20
	タイ	1	10				
Ardisia(ヤブコウジ属(マンリョウ属))	インドネシア	12	68	11	284	9	137
	シンガポール			1	20		
	タイ	5	67	11	55	12	69
	香港	1	1				
	台湾			5	322	2	19
	中国	1	10	1	256		
Averrhoa carambola(ゴレンシ)	中国					1	200
Citrus(ミカン属(カンキツ属)(地上部))	フィリピン	1	1				
Citrus(ミカン属(カンキツ属))	ベトナム	1	2				
Cocos nucifera(ココヤシ(ヤシ))	コスタリカ	2	24,001	2	23,342	2	22,492
Eugenia(ユゲニア属)	台湾			1	4		
	米国			2	10	12	53
Hibiscus(フヨウ属(ハイビスカス))	タイ					14	20
Litchi chinensis(レイシ(ライチ))	台湾	3	2,000	8	2,105	3	900
	中国	2	1,122			4	950

Mangifera indica(マンゴウ(マンゴ-))	インドネシア			2	6	1	1
	タイ			1	20	1	15
	台湾	1	2	3	36	1	8
	中国					1	100
Morus(クワ属)	台湾					1	150
Murraya(ケツキ属)	スリ Lanka	2	1,000				
	タイ					1	3
	中国	37	1,825,544			1	1,250
Musa(バショウ属(バナナ)(地上部))	タイ					16	37
Musa(バショウ属(バナナ))	タイ	46	188	117	1,170	79	804
	台湾	1	2				
	中国					5	5,343
Passiflora edulis(クダモノトケイ(パッションフルーツ))	ベトナム					1	10
	台湾			3	280	5	350
Persea americana(アホカト(地上部))	米国	1	100				
Persea americana(アホカト)	インドネシア			2	4		
	台湾	10	480	1	500	2	600
Plumeria(フツメリア属(地上部))	タイ	4	1,548				
	ハワイ諸島	1	2				
	台湾			14	31		
Plumeria(フツメリア属)	インドネシア					1	20
	スリ Lanka	8	8,870	14	8,870	9	6,806
	タイ	33	2,512	32	1,065	47	2,777
	ハワイ諸島	2	389	3	270	2	257
	台湾	1	2	4	7	2	80
Psidium guajava(バジラコ(クアバ))(地上部))	ベトナム					1	200
Psidium guajava(バジラコ(クアバ))	インドネシア			2	12		
	タイ			1	50	1	20
	ベトナム	1	80			2	458
	中国					2	240
Punica granatum(ザクロ)	台湾			1	5		
	中国	7	2,750	4	2,441	12	3,950
Pyrus(ナシ属)	台湾					2	16

Rosa(バラ属(地上部))	米国	52	358				
Rosa(バラ属)	インド			1	2,200	64	244
	ケニア	13	312	94	2,420	34	1,190
	タイ			1	2		
	ベトナム			2	8	2	36
	中国	1	4			1	9
	米国			6	5,750		
Vitis vinifera(ヨーロッパブドウ(地上部))	米国	3	22	11	730	13	759
Vitis vinifera(ヨーロッパブドウ)	米国			1	100		
Vitis(ブドウ属(地上部))	米国	10	1,167			14	2,403
Vitis(ブドウ属)	米国	12	601				

(2) 消費生植物 (切り花、切り枝)

単位 (数量) : 本

植物名	生産国	2022		2023		2024	
		件数	数量	件数	数量	件数	数量
Citrus(ミカン属(カンキツ属))	ベトナム					1	5
Cocos nucifera(ココヤシ)	フィリピン			1	2	1	4
Eugenia(ユーゲニア属)	タイ			1	300		
	マレーシア			1	80		
	ミャンマー	1	20	9	905	7	926
Hibiscus(フヨウ属(ハイビスカス)(花のみ(茎葉なし)))	インド	1	1				
	中国			1	1		
Hibiscus(フヨウ属(ハイビスカス))	エクアドル	1	16				
Laurus nobilis(ゲッケイジュ)	ベトナム			1	398		
Mangifera indica(マンゴウ(マンゴ-))	インド	10	2,345	2	680	8	8,615
	ネパール					1	1
Morus(クワ属)	ベトナム	2	7				
Murraya(ゲッキツ属)	タイ	1	1				
	米国					1	1
Musa(バナショウ属(バナ))	インド			1	4		
	インドネシア			1	1	1	1

	エクアドル	7	235	3	341		
	タイ	1	1	1	50		
Plumeria(フールメリア属(花のみ(茎葉なし)))	インドネシア					1	1
	タイ			1	1	1	100
	ハワイ諸島	10	22	10	8,715	14	11,577
	フィリピン			1	4		
	ベトナム			1	1		
	米国	2	2			1	1
Plumeria(フールメリア属)	インドネシア					3	3
	スリランカ					1	1,200
	ハワイ諸島	4	506	15	1,598	2	7
	フィリピン	1	1				
Psidium guajava(バジラコ(グアバ))	インド					1	200
Punica granatum(ザクロ)	タイ					1	5
	米国			4	26		
Rosa(バラ属(花のみ(茎葉なし)))	インド	1	5	1	10	1	2
	インドネシア	2	2				
	エクアドル	5	54				
	タイ	3	202	4	106		
	ネパール	2	2				
	ハワイ諸島	2	2	4	33	1	1
	ベトナム	2	19				
	メキシコ			1	13		
	香港			2	102		
	台湾			1	10		
	中国					1	1
	米国	1	4	1	1		
Rosa(バラ属)	アラブ首長国連邦	7	13	10	103	9	834
	インド	27	447,240	98	2,341,410	109	2,674,600
	インドネシア	7	135	37	373	22	375
	ウガンダ	150	2,924,800	171	3,268,390	154	2,685,180
	エクアドル	627	3,040,365	612	2,956,415	801	2,927,553
	カンボジア					2	5
	ケニア	1,267	20,092,571	1,296	21,245,898	1,266	22,846,593

	コロンビア	1,203	2,608,431	964	2,147,113	981	2,181,515
	シンガポール	4	22	16	221	18	331
	スリランカ			3	21	4	16
	タイ	11	164	32	538	14	124
	ネパール	9	27	6	12	5	24
	パキスタン	1	1			4	10
	ハワイ諸島	4	116	2	2	9	29
	バングラデシュ			1	5	2	3
	フィリピン	14	91	33	405	26	212
	ブラジル	1	15				
	ベトナム	171	146,531	72	1,583	166	77,179
	マレーシア	2	3	11	95	7	46
	ミャンマー	1	17	1	1	1	10
	メキシコ			1	496		
	モルディブ	1	40	1	9		
	香港	2	4	22	221	11	47
	台湾	6	33	23	112	14	164
	中国	54	277,027	257	1,704,165	315	1,824,418
	米国	3	15	1	10		
Zingiber officinale(ショウガ)	ハワイ諸島					1	10

(3) 消費生植物(野菜)

単位(数量): kg

植物名	生産国	2022		2023		2024	
		件数	数量	件数	数量	件数	数量
Annona(パッション 属)	インドネシア					2	3
Averrhoa carambola(ゴレンシ)	ベトナム	1	2	1	1	1	1
Carica papaya(パパイア (花のみ(茎葉なし)))	インドネシア			1	1	1	2
	ベトナム			4	5	3	3
Carica papaya(パパイア)	インドネシア	4	34	5	11	6	7
	カンボジア			1	1		
	スリランカ	1	1				
	タイ			1	1		

	フィリピン					3	3
	ベトナム	2	2	2	2	1	1
	中国					1	1
Citrus(ミカン属(カンキツ属) 加工)	カンボジア			1	1		
	ベトナム			1	1		
Citrus(ミカン属(カンキツ属))	インド	1	1				
	インドネシア	16	16	21	21	29	30
	カンボジア	5	5	12	12	8	8
	スリランカ	3	4	8	9	6	6
	タイ	9	9	9	9	6	6
	バングラデシュ					1	1
	フィリピン			5	5	3	3
	ブラジル	2	2				
	ベトナム	141	182	226	238	235	252
	ミャンマー					3	3
	ラオス			1	1	2	2
	香港			1	1	3	3
	中国			2	2	3	3
米国			1	1			
Cocos nucifera(ココヤシ)	インド	2	432	1	56		
	インドネシア			1	4		
	タイ	21	298	1	222	2	11
	フィリピン			1	3		
	ベトナム			6	4,427		
Eugenia(ユッケニア属)	インドネシア	17	17	24	25	16	59
	タイ	1	1				
	ベトナム	1	2			2	2
	ミャンマー	1	10			3	41
	ラオス			1	1		
	中国					1	1
Hibiscus(フヨウ属(ハイビスカス))	ミャンマー			1	1	1	1
Laurus nobilis(ゲッケイジュ)	インド	1	1			1	1
	インドネシア	7	7	13	13	10	10
	カンボジア			1	1		
	シンガポール					1	1
	スリランカ	1	1	2	2	2	2

	タイ			6	6	2	2
	ネパール	2	2				
	バングラ デシュ					1	1
	フィリピン			1	1		
	ベトナム	5	5	6	6	7	10
	ミャンマー			2	2		
Mangifera indica(マンゴウ(マン ゴ-))	インド			2	2		
	インドネ シア			2	2	1	1
	カンボジ ア			1	1		
	シンガポ ール			1	1		
	タイ			2	2		
	フィリピン	3	3	1	1	3	3
	ベトナム			2	2		
	ミャンマー			1	1		
Murraya(ケッキ 属)	インド	36	52	17	39	12	12
	インドネ シア	6	6	2	2	3	3
	カンボジ ア					1	1
	シンガポ ール	8	8	4	4		
	スリランカ	245	253	70	71	113	115
	タイ	3	3	2	2	2	2
	ネパール	3	3				
	フィリピン	6	6	1	1		
	ベトナム	21	24	16	16	17	17
	マレーシア	10	10	16	16	5	5
	ミャンマー	2	2			1	1
	香港 中国			2 1	2 1	 1	 1
Musa(バショウ属 (バナナ) 加工)	ベトナム					20	2,708
Musa(バショウ属 (バナナ)(花のみ(茎 葉なし)) 加工)	ベトナム			8	172	1	80
Musa(バショウ属 (バナナ)(花のみ(茎 葉なし)))	インド					1	10
	カンボジ ア			1	1		
	スリランカ			1	1	3	5
	タイ	1	1	1	1		
	フィリピン	1	28	1	1	3	1,298
	ベトナム	2	850	55	2,842	32	6,130

Musa(バナショウ属 (バナナ))	インド	152	1,493	168	1,556	152	1,642
	インドネシア	3	3	7	7	3	3
	カンボジア			1	2		
	シンガポール	1	1				
	スリランカ	65	947	39	269	104	592
	タイ	153	4,879	149	3,845	139	3,535
	ナイジェリア	1	4	2	5		
	バングラデシュ					1	1
	フィリピン	118	42,160	132	85,216	114	107,889
	ベトナム	34	4,873	66	5,677	120	10,809
	マレーシア	1	1	1	1		
	ミャンマー	2	2	3	3	2	2
	中国			1	1	2	2
Passiflora edulis(クダモノトケイ (パッションフルーツ))	スリランカ	1	1	1	1	1	1
Persea americana(アホカト)	フィリピン	4	5	1	1	2	2
Psidium guajava(パシヅロウ (グアバ))	インド			1	1		
	インドネシア	3	3	4	4	3	3
	スリランカ			1	1	2	2
	タイ			2	2	3	3
	ネパール					1	1
	バングラデシュ					1	1
	フィリピン	8	8	11	11	32	32
	ブラジル	1	1			1	1
	ベトナム	2	2	7	8	21	26
Rosa(バラ属(花のみ(茎葉なし)))	タイ					1	1
Rosa(バラ属)	インドネシア					1	1
Vitis(ブドウ属)	アラブ首長国連邦					1	1
	イラン	3	3			1	2
	スリランカ			1	1	1	1

引用文献

- CABI (2014) *Aleurocanthus woglumi*. In: Crop Protection Compendium. (online), available from <<http://www.cabi.org/cpc/>>, (Last modified 2014-08-14).
- CABI (2025) *Aleurocanthus woglumi*. Crop Protection Compendium. (online), available from <<https://www.cabidigitallibrary.org/doi/10.1079/cabicompendium.4137>>, (accessed 2025-09-30).
- Dubey, A. K. and C. C. Ko (2012) Sexual dimorphism among species of *Aleurocanthus* Quaintance & Baker (Hemiptera: Aleyrodidae) in Taiwan, with one new species and an identification key. *Zootaxa* 3177: 1-23.
- EPPO (1993) Phytosanitary procedure, No. 46. Methyl bromide fumigation of citrus and other host plants to control *Aleurocanthus woglumi*. EPPO Bulletin 24: 315.
- EPPO (2025) *Aleurocanthus woglumi*. EPPO Global Database. (online), available from <<https://gd.eppo.int/taxon/ALECWO>>, (accessed 2025-09-30).
- EPPO/CABI (1997) Quarantine Pests for Europe. 2nd ed. CABI International, Wallingford, UK: 1425 pp.
- FAO (1983) International Plant Quarantine Treatment Manual. FAO, Rome, Italy: 123.
- Gabaidze, M., S. Mepharishvili, N. Khalvashi, G. Memarne, L. Gorgiladze, M. Turmanidze and L. Vanishvili (2024) Outcomes of phytosanitary monitoring in the citrus plantations of Adjara-Guria. *Annals of Entomology* 42: 75-82.
- Kanmiya, K., S. Ueda, A. Kasai, K. Yamashita, Y. Sato and Y. Yoshiyasu (2011) Proposal of new specific status for tea-infesting populations of the nominal citrus spiny whitefly *Aleurocanthus spiniferus* (Homoptera: Aleyrodidae). *Zootaxa* 2797: 25-44.
- 是永龍二(2003) ミカントゲコナジラミ. 日本農業害虫大事典. (梅谷献二・岡田利承編). 全国農村教育協会, 東京: 1203 pp.
- López, S. N., C. Peralta, A. Aguirre and S. Cáceres (2011) First record of the citrus blackfly *Aleurocanthus woglumi* (Hemiptera: Aleyrodidae) in Argentina. *Revista de la Sociedad Entomológica Argentina* 70: 373-374.
- Nguyen, R., A. B. Hamon and T. R. Fasulo (2007) Citrus blackfly, *Aleurocanthus woglumi* Ashby (Insecta: Hemiptera: Aleyrodidae). Institute of Food and Agricultural Sciences, University of Florida, Gainesville USA: 1-5.
- 農林省 (1950) 植物防疫法施行規則 (昭和 25 年農林省令第 73 号) .
- Oyelade, O. J. and A. A. Ayansola (2015) Diversity and distribution of whiteflies in south-western Nigeria. *African Crop Science Journal* 23: 135-149.
- 佐藤安志(2011) チャを加害するミカントゲコナジラミ (チャ系統) の発生と防除. *植物防疫* 65: 157-161.
- Stansly, P. A. and M. E. Rogers (2014) Florida citrus pest management guide: Soft-bodied insects attacking foliage and fruit. Department of Agriculture, UF/IFAS Extension Service, University of Florida.
- Watts, W. S. and M. Alam (1973) Spray trials against the citrus blackfly (*Aleurocanthus woglumi*) on limes in the Oman. Miscellaneous Report No. 8, Overseas Development Administration, Foreign and Commonwealth Office: 7 pp.
- Yakiobashvili, G. T., M. Sh. Partsvaniya and Z. P. Loladze (2021) Species composition of whiteflies - pests of citrus plantations in Georgia. *Zashchita i Karantin Rastenii*: 45-46. (Abstr.).